

概要集

2022 年 6 月 19 日
シンポジウム実行委員会

EI01 Valeri Souchkov (ICG Training & Consulting)

(基調講演 I)

ビジネス TRIZ: モダン TRIZ のビジネスとマネジメントへの適用

Valeri Souchkov

(TRIZ Master: ICG Training & Consulting、オランダ)

「これまで、企業組織は、有形および無形の製品を生産して顧客に提供するために、従来の方法で事業運営を行っていました。地理的な障壁は、ビジネス組織が新しいビジネスモデルを発明することなくパフォーマンスを維持し成長するのに役立ちました。20 世紀初頭に状況は劇的に変化しました。ビジネスのオンライン化、高効率のグローバルロジスティクスシステムの導入、遠隔地間でデータを接続および共有する機能を備えたビジネスプロセスの IT サポートの迅速な開発により、グローバル市場への入り口の障壁が低くなりました。それは中小企業でさえ世界規模で競争する機会を提供しました。

このようなビジネス環境の変化は、競争を激化させ、困難で複雑な多くの新しい問題を引き起こしました。今日の企業は、競争力を維持するためにこれらの問題を正しい方法で解決するだけでなく、これまでになく迅速に解決する必要があります。

そのような問題の中には、非日常的な問題、つまり相反する要求によって引き起こされる問題が、事業活動のあらゆる分野で発生します。それらを非日常的にしているのは、いくつかの制約のために、既知の解決方法が適用できないことです。たとえば、ある会社が収益を増やしたいと考えています。考えられる既知の解決策は、追加の営業担当者を雇うことです。しかし、利用可能な予算はそれを可能にしません。他のいくつかの解決策はよく知られています：別の部門の人員を削減して資金を移し、ローンを取得し、投資を検索するなど。しかし、制約のために、特定の状況でそれらのいずれも機能しないと仮定しま

す。何をすべきか？箱から出して、創造的な解決策を探す必要があります。

このような非日常的な問題の大部分は、要求の対立に直面しているため、解決が困難です。私たちの問題の 1 つの要求は、営業部門を拡大する必要があるということです。しかし、もう 1 つの要求は、予算がなく、短期間に追加の投資を見つけることができないため、営業部門を拡大してはならないということです。

1970 年代に、ロシアの発明家ゲンリッヒ・アルトシュラーは彼の発見を発表しました。TRIZ は、そのような非日常的な問題の解決を可能にする発明的問題解決の理論を表すロシアの略語です。今では、彼のオリジナルの作品は、彼の何千人もの学生や仲間による広範な研究を通じて大幅に拡大されています。TRIZ は、フォードモーター、ゼネラルエレクトリック、インテルコーポレーション、ヒュンダイ、プロクターアンドギャンブル、サムスンなど、多くの企業でイノベーションのベストプラクティスとして組み込まれています。

しかし、現代の TRIZ は技術と工学に限定されていません。

2000 年代の初め以来、TRIZ は非技術分野のサポートも提供しています。特に、ビジネスと管理に適合した TRIZ のバージョンがあります。私たちはそれを「ビジネスと管理のための TRIZ」または「ビジネス TRIZ」と呼んでいます。技術的な製品やプロセスと同様に、ビジネスシステム、製品、サービスも、一般的な傾向やパターンに従って革新的に進化する傾向があります。これらの傾向とパターンを抽出して、わずかな時間で新しい画期的なソリューションを見つけるためのガイドラインとして使用できます。

このプレゼンテーションは、過去 20 年間に開発された TRIZ のバージョンである「ビジネス TRIZ」の最先端を示しており、今日のビジネスおよび管理環境でビジネスの対立を解決し、次世代のビジネスを迅速かつ体系的に探求するために成功裏に使用されています。、多くの場合。」

Future Mapping と TRIZ の将来

Len Kaplan

(TRIZ Master : アメリカ)

FutureMapping は、体系的な危機 (パラダイムシフト)、進化の新たなトレンド、および画期的なイノベーションを予測する方法です。この方法は、「次世代の自動車輸送」、「幹細胞治療における次のパラダイムシフト」などのいくつかの実際のプロジェクトでテストされています。現在、この方法は現在の世界的な危機の予測に使用されています。予測された側面の 1 つは、人類にとって生死にかかわる重要な複数の解決不可能な問題を解決することを目的とした大規模な知的労働を示唆しています。これらの問題は、人工世界と自然世界の共進化のための新しい方法を見つけることに関連しています。この予測は、TRIZ ベースのアプローチがこの大規模な知的労働の高効率を提供する上で果たすことができる重要な役割を示唆している。この目的のために TRIZ の新機能が必要であり、それらは今、前もって開発されるべきである。

（特別講演）

～ ブレイクスルー思考で着眼点を変えた ～

20 年以上続く冷蔵庫の機能 切れちゃう冷凍の開発

平岡 利枝 （三菱電機株式会社）

昨今のものづくりは「モノ創り」から「コト創り」に変化しています。その開発には柔軟な考え方が必要です。例えば「冷蔵庫をどう進化させるか？」という発想ではなく、「家事を効率的にするために何が必要か？」と考える必要があります。つまり冷蔵庫という「モノ」ではなく、家事という「コト」を考えて発想、開発するということです。そのためには見えないニーズ（=あるべき姿）を追求する必要があります。

今回はブレイクスルー思考により着眼点を変え、あるべき姿を追求して生まれた冷蔵庫の機能である「切れちゃう冷凍」を事例にその発想・開発についてご紹介します。

J01 守屋 宗真（水島プレス工業株式会社）

待ち受け型製品開発から提案型製品開発へ

～SDQD、QFD、TRIZ を使った企画・開発力強化～

守屋 宗真（水島プレス工業株式会社）

水島プレス工業株式会社は、半世紀以上自動車部品を製造してきたが、あくまでお客様からの
要求形状・要求品質に基づき部品を作り、高品質と低価格を実現する、いわゆる待ち受け型製品開発で
利益を得てきた。

しかし、自動車産業のパラダイムシフトが進行する中、お客様の要求である当たり前品質・一元的品質だけでは、他社との価格競争に陥ってしまう状態になりつつある。

そこで弊社は2015年から、お客様の期待を超える、魅力的な製品を提供するために、以下の取り組みを中心に、企画力および技術開発力の強化をはかってきた。

- ①TRIZによる問題解決能力のレベルアップ
- ②SDQDによる技術シーズを起点にした新たな市場、新たな顧客の開拓
- ③QFD-TRIZによる顧客要求を起点にした魅力的な提案型商品の開発

- ①については2017年に紹介させていただいたので、今回は③の取り組みについて紹介したい。

J02 久永 滋（株式会社デンソー）

企業における TRIZ 普及のための一試案

－ 専門用語を使わない TRIZ テキストの作成 －

久永 滋（株式会社デンソー）

昨年2021年の日本TRIZ協会主催の第17回シンポジウムでは、初心者に対するTRIZ普及の方法についていくつかの発表がなされた。これらの発表は、近年の組織的TRIZ活動の低調な状況を真正面から見据え、これを改善しようとする真摯な姿勢を出発点としている。同じくTRIZ普及に携わってきた者として、発表者らの取り組みに敬意を表したい。TRIZ普及を目指して2003

年から活動してきた企業の TRIZ 推進者の立場としても課題意識は共有している。時を同じくして、同じ観点で試みていた「企業における TRIZ 普及のための一試案」として「専門用語を使わない TRIZ テキスト」というものを提案する。これは、短時間でかつ興味をもって初心者が TRIZ を学べることをねらいとしている。

本発表では、「専門用語を使わない TRIZ テキスト」を作成しようとした背景、作成方針、記載内容を紹介し、TRIZ 教育のあり方の議論に資したい。

J03 永瀬 徳美（日本 TRIZ 協会）

TRIZ-Rx 分科会活動報告その3 シンポジウム既発表情報データベースの構築状況

永瀬 徳美（日本 TRIZ 協会）、三原 祐治（日本 TRIZ 協会）長谷川 公彦（日本 TRIZ 協会）、池田 理（日本 TRIZ 協会）、中尾 康範（日本 TRIZ 協会）

TRIZ-Rx 分科会は、2018 年の TRIZ シンポジウムで旗揚げしたばかりであり、まだ比較的活動履歴の浅い分科会である。

TRIZ-Rx 分科会の活動目的は、「これまでのシンポジウムで発表された内容を整理し、よりスマートな活用を検討する。幾つかの切り口から体系的に整理し、その参照・応用を通じて TRIZ の発展につなげる」ことにある。

これまでに、構築中のデータベースの極小規模のサンプル版を製作して、ホームページで公開試行も実施してきている。

しかしながら、既発表件数は350件を超えており、データベース全体の構築は道半ばである。

本発表では、2021年に取り組んだデータベースの2つの課題の取り組みを含む分科会活動の現状や、今後の活動について紹介する。

J04 中川 徹（大阪学院大学）

WTSP 世界 TRIZ サイト/TRIZ 周辺サイトカタログ集(5)

有用で魅力的な資料 — 活用を進めて、拡張・充実へ

中川 徹（大阪学院大学）、Darrell Mann（英）、Michael Orloff（独）、

世界 TRIZ 関連サイトプロジェクト(WTSP)は、2017 年 12 月にボランティア活動として発足して以来、地道な作業で、TRIZ およびその周辺分野のウェブサイトのカタログ集を構築してきた。日本の部を 2018 年 3 月に和文で(2019 年 7 月に英文で)発表し、世界全体のものを 2019 年 10 月にベータ版として英文で発表した。その後、世界の多数の賛同者に活動参加を呼びかけつつ、改良・充実を図っている。本年 1 月に、従来の「構築」主体の活動から、「活用」奨励を並行する活動に発展させ、「WTSP カタログ集の(ユーザ向け)紹介」を作成した。特に日本では、TRIZ はもちろん、その周辺のサイトのカタログが随分整っているから、ぜひカタログを見て、重要と思うサイトを訪問して、学習・習得し、また直接の交流・協力をしていただきたい。その中で自他の考え・実践を向上させ、またカタログ集の紹介記述を拡張・改良していただきたい。ユーザによる活用と注文こそが、サービス(カタログ集)を良くする原動力である。

世界の WTSP カタログ集について、昨夏以来、次の 2 つの改良をしている。(1) 世界の 52 か国と 3 言語グループについて各国別の TRIZ サイトの Web 検索をし、総計 1300 余のサイトを検出・訪問した。うち、40 か国で評価□以上 120 サイト、△52 サイトを選択し簡単に紹介した。ただ、12 か国 480 サイトについては、評価・紹介ができていない。これらは主に、英・仏・独・伊・韓・台・豪などの主要国であり、多くの優良サイトを含み、各国でのきちんとしたカタログ作成活動が強く望まれるものである。なお、マレーシア・中・露・米については、すでにかんり程度のカタログ情報を公開しているが、一層の充実が必要である。(2) 世界の TRIZ 周辺サイトについて、ベータ版の基礎にした全検出サイト(約 1000 件)を再度訪問調査し、紹介記述の充実と評価の一部見直しをしている。4 種のキーワード(Creative Thinking, Creative Problem Solving, Innovation, Quality/Value/Cost)での検索結果の見直しを終え、最後の Patent に関する検索結果を作業中である。この結果、TRIZ 周辺サイトのカタログ集は、ベータ版での◎および○評価のサイトだけでなく、□評価(世界カタログに掲載価値あり)のものすべて(約 450 件)の情報(5~15 行の紹介を含む)を、近く整備できる。

当面の課題は、(3)主要国での国別 TRIZ カタログ集の作成(◎○□サイトのリストアップと(簡単な)紹介)が大事である。各国でボランティアによるチームとそのリーダーが必要である。(4)各サイト(特に評価◎○のサイト)の責任者によるサイト紹介(標準書式(A4 1 頁)および随意的の詳細紹介)が強く望まれる。(5)ユーザが興味を持つサイト(群)を、カタログ集内で容易に見つけられる機能の拡充がその次の課題である。(3)(4)の記述を進めつつ、ユーザインタフェースと検索機能の整備・改良を進める計画である。

多くのユーザがカタログ集を使ってみてその価値を認識し、「よりよくしてほしい」という要求を上げることが、これらの活動の原動力になる。「イノベーションの必要」が認識されながらも、「イノベーションの方法」が模索段階である現在、TRIZ とその関連技法のウェブサイトをまとめた「世界 TRIZ 関連サイトカタログ集」は貴重な情報源である、とわれわれは信じている。

J05 緒方 隆司 (株式会社 アイデア)

リアルと同等以上のアイデア出しが可能なオンライン TRIZ ～パワーポイントとソフトウェアを駆使した効果的 TRIZ の実践

～

緒方 隆司 (株式会社 アイデア)

コロナ禍の中、我々企業向けコンサルも殆どオンラインで実施している。この様な環境変化の中、様々な試行錯誤を経て、参加者が全員オンラインでも効果的に TRIZ を使った発想ができるようになってきた。今回は、商品企画、技術課題解決、コストダウン等の目的で複数社にて実施し、効果を上げているパワーポイントとソフトウェアを使ったオンライン TRIZ の方法について報告する。

J06 土屋 浩幸 (オリンパス株式会社)

オリンパス流科学的アプローチの推進 社内での TRIZ 活用～VE 活動と連携させた拡大機会～ 土屋 浩幸 (オリンパス株式会社)

当社では、2012 年から、QFD、TRIZ、TM (Taguchi Method) の3手法をベースに 技術者の問題に合わせ「7つの目的別ソリューション」を展開してきた。その中で、TRIZ の考え方の理解は進んできているものの、開発上流のイノベーション活動への貢献(活用)は途上である。

一方で、当社では 2019 年より“Transform Olympus”を掲げ、医療分野における世界トップレベルのプレーヤーを目指した全社変革活動を開始した。これには開発プロセス改革も含まれており、施策の一つとして VE 手法 (Value Engineering。以降 VE) の活用が挙げられている。

VE には機能展開、アイデア発想など、我々が社内推進するプロセスと共通する部分が非常に

多く、専門家の知見を盛り込むことで、取り組みの加速ができると考え、実テーマでの試行を実施した。

その結果、VEプロセスへの科学的アプローチ並びにTRIZの適用について、一定の成果が得られ、今後の活用展開の糸口を得ることができた。一方で、改善すべき点も見つかっており、今回は取り組み内容を紹介するとともに、更に改善していくためにはどうすればよいか議論をお願いしたい。

J07 片桐 朝彦（株式会社アイデア）

TRIZの活用における“問題の本質化”の重要性について

片桐 朝彦（株式会社アイデア）

TRIZを使ってもアイデアの数は出るが、今までと同じようなアイデアばかりで、画期的なアイデアが出ない。と言ってTRIZを実務で適用しようとして挫折する人は多い。

このようなケースで一番多いのが、直面する問題に対してそのまま発想ツールである【40の発明原理】などを適用してアイデア出しをしようとするケースである。確かに【40の発明原理】はツールとしての分かり易さ、使いやすさや、創出されるアイデアの数が多いことなどから、最も活用される発想ツールの一つであるが、このアプローチだと、残念ながら創出されるアイデアは限定的で、従来の発想の域を出ることが出来ず、結果的に多少アイデア数が増える程度であろう。

これは、TRIZの生みの親であるアルトシュラーが創造性を阻害する要因として挙げる

- ・ 的外れな目標：問題点の把握が不十分
- ・ 心理的惰性：思い込み、無意識に働く特定のコンセプトへのこだわり

に起因するもので、問題点をしっかり把握し、心理的惰性を打破するためのステップを踏んでいないからである。

本稿では、このステップを”問題の本質化”とし、なぜ問題が起きているのか要因を因果関係で深掘りする【原因結果分析】、および、問題を起こしているシステムを構成する要素の機能的な相関関係を掌握する【機能属性分析】の2つのツールで分析することにより、問題をきちんと把握。表面的な事象の根底に潜む根本原因の特定や、今まで気づかなかった問題解決のための新たな切り口の発見に向けた事例を紹介する。さらに、この”問題の本質化”をアイデア創出の前段階に組み込んだ実践的、普遍的な問題解決のプロセス、および、新規に開発した対応ツールを紹介する。

J08 池谷 大樹（日本 TRIZ 協会 知財創造研究分科会）

TRIZ 初心者のための、「技術進化のトレンド」の習熟方法

池谷 大樹（日本 TRIZ 協会 知財創造研究分科会）

一人の TRIZ 学習者として、「TRIZ は、難解で習熟しにくい」と感じることもある。理由は、①抽象的な思考を要求されることが多く腹落ちするまでは自在に使うことが困難である、②身近に TRIZ 習熟者が不在でつまづきポイントを解消しづらい、ためだ。こうした理由が、TRIZ が普及するための障害になっていると考えられる。そこで筆者は、初心者が独学で TRIZ に習熟できる方法がないか検討した。2021 年度の TRIZ シンポジウムではリバース TRIZ を用いた発明原理と矛盾マトリクス of 習熟方法について提案した。今回は、その続編として「技術進化のトレンド」をとりあげ、その習熟方法を提案したい。具体的には、身近な日用品などを題材として、9 画面法を簡略した 8 画面法とリバース TRIZ とを組み合わせ、「技術進化のトレンド」の法則から具体例を生成する。具体例を作る過程で各トレンドが学習者の知識や経験と結びつき、腹落ちしていくことにより習熟を図る。

J09 永瀬 徳美（日本 T R I Z 協会 知財創造研究分科会）

T R I Z における属性活用強化

ー 自然界の $c \varepsilon$ 辞典集と属性集の取り組みからー

永瀬 徳美（日本 T R I Z 協会 知財創造研究分科会）

分科会では、あらゆる分野に適用可能なアイデア発想のヒント集として、自然界の $c \varepsilon$ 辞典集と属性集からなるデータベースを提案し、その構築に取り組んでいる。

その初期の検討過程で注目したキーワードの一つが「属性」である。

一般的に「属性」とは、

- ・ある事物に属する性質・特徴 例えば、ゴムの弾力性
- ・哲学で、事物が本来具有する根本的性質。それなしには実体が考えられないような本質的性質。

・コンピュータで、ファイルのもつ性質。また、表示・印刷などの際に設定する特性
というように捉えられている（参照：デジタル大辞泉）。

知財創造研究分科会では、ＴＲＩＺ的な視点からこの「属性」について再考し、その重要性についても検討してきている。

現時点で確固たる「属性」の定義についての結論に至っているわけではないが、その活用は問題解決および新たな価値創造において、強力なツールとなると確信する。

本発表では、ＴＲＩＺの「属性」とはどのようなものを整理し、その活用強化の可能性について提示する。

J10 長谷川 公彦（日本ＴＲＩＺ協会 知財創造研究分科会）

自然界の ϵ 辞典集と属性集の作成事例について（その１）

－ＴＲＩＺ普及策のためのツールを提案する－

長谷川 公彦、片岡 敏光、永瀬 徳美、石原 弘嗣、正木 敏明、中尾 康範、
池谷 大樹

（日本ＴＲＩＺ協会・知財創造研究分科会）

アルトシューラが創案したＴＲＩＺ（古典的ＴＲＩＺ）を使い始めた方々から聞こえてくる話として、発明原理や発明標準解で推奨されている技術手段の解説が抽象的過ぎてわかりづらい、また具体例が機械や電気分野に限られているため使いづらい、ということがある。これに対して、最近のＴＲＩＺ（現代版ＴＲＩＺ）では、いろいろな分野の人々に役立てる目的で、化学分野、化学工学、建築、ＩＴ、ソフトウェア、マイクロエレクトロニクス、財政、社会問題、教育、エコロジー、ビジネス、マネージメント、マーケティング、食品、品質管理といった分野ごとの発明原理も作られていることが知られている。

一般の研究者、技術者の専門分野から最も遠いものとして自然界の知識がある。そこで、自

自然界の知識をアイデア発想の拠り所にするのであれば、利用できる範囲が特定の技術分野に偏ることもないだろうと考え、あらゆる分野に適用可能なアイデア発想のヒント集として自然界の辞典集と属性集からなるデータベースを提案することにした。

J11 森谷 康雄 (日本TRIZ協会 ビジネス・経営 TRIZ 研究分科会)

「進化トレンド」の汎用的な適用方法の研究

～「人の幸せ」を目指したビジネスモデル構築のための「進化トレンド」の使い方～

池田理、伊沢久隆、大橋守、森谷康雄、吉澤郁雄
(日本TRIZ協会 ビジネス・経営 TRIZ 研究分科会)

本研究会においては、ビジネス、経営およびマネジメント分野の課題に対して、適用方法、事例研究など、TRIZ を活用するための研究とガイダンス構築を目指し、TRIZ の普及・発展に供することを目的として活動している。

これまでの活動において、TRIZ 流の解析ツール(マネジメント系の矛盾マトリックスと発明原理、進化トレンドと進化レベルなど)がおおよそ整ったことから、第 11 回・12 回・13 回・14 回・15 回の TRIZ シンポジウムにおいては、特定のツールに焦点を当て、Darrell L. Mann 提唱の「進化トレンド」の適用方法を検討対象とした。

昨年は、「進化トレンド」を軸として、特定ビジネスの将来動向を探索し、将来的に満たすべき新たな機能(成功要因&競争要因)の特定方法として、コロナ禍によってビジネスモデルの進化を加速させた要因としての事業リスクに着目し、反転思考により事業環境におけるリスク要因を探索する方法提示した。

今年度は、特定ビジネスの将来動向を探索する基軸に SDGs(持続可能な開発目標)をおくことで、将来的により進化または後退させるべきサブシステム(進化トレンド)を特定する。

1. 社会的な問題に対処するには新たなサブシステムの追加、現行のビジネスモデルを構成するサブシステムの削除や進化または後退をさせて社会的要請にこたえる必要がある。
2. そこで、SDGs に着目し、新しい効用軸を創出するための 4 つのアクション「付け加える」「増やす」「減らす」「取り除く」に対応すべきサブシステム(進化トレンド)を特定する。
3. 特定したサブシステム(進化トレンド)の追加・削除や進化レベルの上昇・後退により新たなビジネスモデルを創出する。

J12 西山 聖久（タシケント工科大学）

ウズベキスタンにおける VE・TRIZ 普及活動に関する報告

西山聖久（タシケント工科大学）、澤口学（立命館大学 テクノロジー・マネジメント研究科）

筆者は現在、ウズベキスタンの首都、タシケント工科大学に副学長として赴任し、VE・TRIZ の普及にも精力的に取り組んでいる。ウズベキスタンは旧ソ連圏であるものの、TRIZ についてある程度精通している人には出会っておらず、おそらく、本イベントは、VE・TRIZ ワークショップとしては、ウズベキスタンで初となる試みである。本報告では、2021 年の後半に筆頭著者と第二著者がタシケント工科大学にて開催した、VE・TRIZ ワークショップに関する報告を行う。

J13 大津 孝佳（沼津工業高等専門学校）

オノマトペを用いた TRIZ 教育の実践

大津 孝佳（沼津工業高等専門学校）

沼津高専では、全学的知財創造教育を推進し、1 年生から専攻科生までが 1 年に 1 回以上知財に触れることを継続的に行う「スパイラルアップ型の全学的知財創造教育システム」を構築している。全 1 年生の工学基礎 II 知財セミナー、全 2 年生の知財基礎セミナー・全 3 年生対象の知財応用セミナー、また、高学年においても全 4 年生を対象とした必修科目の「社会と工学」である。更に深く活用を意識した知財を学びたい学生の為に、課題研究での TRIZ 教育や、特別同好会『知財の TKY(寺子屋)』がある。課題研究は、指導教員のもとで、年間 30 時間以上の学びをするものである。2021 年度の課題研究テーマは「TRIZ(トリーズ)発明原理のオノマトペ」とし、遠隔&対面のハイブリッド授形式で行った。科目内容概要は『Society5.0 人材育成として、アイデアを創造し、アイデアを保護し、アイデア/権利を活用する力を育むことが求められている。身の回りには様々な商品/製品があり、発明原理が活用されている。そこに使われている TRIZ の 40 の発明原理を絵や写真とオノマトペで表現することで、創造法（TRIZ 発明の原理）を理解する。』というものである。

TRIZを武器に駿河湾の魅力を発信

大津孝佳、肥田友希、渡邊竣、上野晴瑚、長岡さゆり、岩田みなみ、北村天、
関野萌衣、藤江優光、小川隼輝、小林聖、眞保愛、進士野々香、望月倫、鈴木悠矢
（沼津工業高等専門学校）

Society5.0を担う価値創造型の未来産業人材育成を目指し、2016年に特別同好会『知財のTKY（寺子屋）』を設立した。地域特性を活かし、TRIZを武器に、本物への挑戦を通して、課題発見し、アイデアを創造し、解決に挑む。特に、理想と現実を理解し、その差を明確にすることで技術課題の解決策を育むと言ったEducation-TRIZの『トングスモデル』の実践を行っている。2021年度はシーラカンスの等身大3Dブロックモデルの活動を「世界知的財産の日」のイベントにて紹介した。また、駿河湾フェリーと連携し、知財系Vtuber「知寺りず」による駿河湾の魅力の紹介動画制作や駿河湾3Dモデル教材の開発を通し、技術矛盾にTRIZの発明原理で挑み、駿河湾教育プログラムを制作し、駿河湾フェリー内や伊豆天城白壁荘にて小中学生を対象とした駿河湾教室を行った。